

## 講演会・カンファランス等のご案内

### 北九州地区小児科医会のご案内

#### 第568回北九州地区小児科医会例会（ハイブリット開催）

日時：2021年4月22日（木）19:15～20:30

場所：小倉医師会館

演題：「子どもの睡眠」

演者：大阪大学大学院 連合小児発達研究科

教授 谷池 雅子 先生

Zoomウェビナーでの参加も可能です。（要事前登録）

QRコードもしくは下記IDを使用して登録ください。

ウェビナーID 919 7633 2434 パスコード 637894

別途案内を参照ください。



#### 第569回北九州地区小児科医会例会（WEB配信）

日時：2021年5月20日（木）19:15～20:30

演題：「てんかんの薬物療法 新たな展開へ  
ペランパネルの2段階療法」

演者：医療法人清照会湊病院北東北てんかんセンター

センター長 兼子直 先生

▼ZoomによるWEB配信を予定しています。 <https://zoom.us/>

### 産業医科大学カンファランス・セミナー

現地とWeb配信のハイブリッドで開催いたします。

Webでの参加をご希望の先生は、

[j-syoni@mbox.med.uoeh-u.ac.jp](mailto:j-syoni@mbox.med.uoeh-u.ac.jp)までご連絡願います。

後日、参加方法の詳細をお知らせいたします。

#### 産業医科大学小児科セミナー

日時：4月19日（月）18:00～

場所：産業医科大学大学2号館2208教室

演題：VPD（ワクチンで予防可能な疾患）の現況報告

演者：産業医科大学小児科 保科 隆之先生

※4月の産業医科大学小児科クリニカルカンファレンスは  
お休みです。

#### 産業医科大学小児科クリニカルカンファレンス

日時：5月10日（月）19:00～

場所 産業医科大学大学2号館2208教室

演題：抗N-methyl-D-aspartate（NMDA）受容体抗体脳炎

演者：産業医科大学小児科 柴原 淳平 先生、福田 智文 先生  
石井 雅宏 先生

※5月の産業医科大学小児科セミナーはお休みです。

### その他講演会などのご案内

#### 第435回小倉小児科医会臨床懇話会(Web 講習会)

日時：2021年4月15日（木）19:00～

場所：WEBのため、事前申し込み

演題1：「当科で経験した腸管重複症の3例」

演者：国立病院機構小倉医療センター 小児科 坂倉 光 先生

演題2：「幼児期に発症した精巣捻転の2例  
～診断の pitfall～」

演者：国立病院機構小倉医療センター

小児外科 生野 久美子先生

<要事前申込> 連絡先:小倉医師会 TEL.093-551-3181

## 保険診療メモ (202103)

### 注意欠如／多動症 (ADHD)、自閉スペクトラム症 (ASD) に用いられる薬剤について

近年、ADHDに対するコンサータ®の不適切使用があったこと、また新規治療薬 (ビバンセ®) の発売に伴い、ADHD治療薬の管理が厳格化されました。新しい管理システムに登録が必要です。

登録の基準は、

登録基準A：日本小児科学会認定の小児科専門医もしくは日本精神神経学会認定の精神科専門医である事、かつ以下の7学会のいずれかの学会の会員である事 (日本児童青年精神医学会、日本小児神経学会、日本神経精神薬理学会、日本ADHD学会、日本小児精神神経学会、日本小児心身医学会、日本臨床精神神経薬理学会)。

登録基準B：基準Aの医師2名以上がADHDの診断・治療に精通していると判断し、推薦した医師。

の2つです。移行期間は2019/12/2から2020/6/30の間(新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、9/30まで延長)であり、すでに終了しています。

患児に対象薬剤を処方希望の場合、処方箋ならびにインターネット上での処方登録が毎回必須となります。薬剤師も処方箋ならびにインターネット上での処方登録を確認し、本人の登録カード (初回は仮カード) と照合した後の交付となります。患児は薬局にて、処方箋と登録カードを提出し処方薬を受け取ります。初回処方時のみ、医師が仮の登録カードを印刷し患児・家族に手渡します。2回目以降は初回処方の2週間後に病院・診療所に郵送された登録カードを患児・家族がサインして受け取って利用することとなります。

ADHDの治療薬にはコンサータ、ビバンセのほか、インチュニブ、ストラテラがありますが可能な限り併用は避けてください。インチュニブには血圧および心拍数を低下させることがあるため、投与前の心電図確認が必要です。房室ブロック (第二度、第三度) のある患者には禁忌です。

自閉スペクトラム症の易刺激性に対し、エビリファイやリスパダールの投与が認められています。原則として6歳以上、18歳未満の患者に使用することとなっています。エビリファイは通常1日1mgを開始用量、1日1-15mgを維持量とします。18歳で15mgまでですので、年齢に応じて最大量を検討してください。症状により適宜増減しますが、増量幅は1日最大3mgとし、1日量は15mgを超えないことと定められています。本剤は定常状態に達するまでに約2週間を要するため、2週間以内に増量しないことが望ましいとされています。

リスパダールは体重15kg以上20kg未満の患者に通常1日1回0.25mgより開始し、4日目より1日0.5mgを1日2回に分けて経口投与。増量する場合は1週間以上の間隔をあけて1日量として0.25mgずつ増量。1日量は1mgを超えないこと。体重20kg以上の患者は1日1回0.5mgより開始し、4日目より1日1mgを2回に分けて経口投与、増量幅は0.5mgずつ1週間以上あけて。最大投与量は20-45kgの場合2.5mg、45kg以上で3mgです。

(福岡県小児科審査委員連絡会)

## ※RSVの流行とパリビスマブ（シナジス）の保険請求上の取り扱い

全国的の動向とは一致せず、福岡県ではRSV感染症は1月後半から流行の域に達しています。福岡県小児科社保・国保審査委員連絡会（以下、連絡会）では去る3月20日に会議を行い、いくつかの取り決め事項をまとめました。すでに流行が始まっていますので、現場の先生方に周知すべく文章をお送りしています。

一部の地域では依頼元（大病院小児科）が初回を接種していないところがあったり、ダウン症や心疾患・免疫不全など接種可能期間が長い対象では、前シーズンに接種した医療機関（多くは開業医）で翌シーズンの初回からいきなり再開する例があります。対象期間を過ぎて査定になった場合、かなりの負担（薬価だけでも多くの場合12万円以上）となります。紹介元（大病院小児科）の先生方は、依頼先（開業医）の先生が少しでも疑問や不安をお持ちになっている際には気軽に相談に乗り、親身になった対応をしていただけるようお願い申し上げます。

1, 何よりも患者さん優先ですので、シナジス接種を開始（または継続）していただいてもかまいません。ただし、（保険診療とは別問題ですが）回数が多くなっている例では筋拘縮症などの副作用にはくれぐれも気をつけてください。継続・短期間での接種再開例などでは、接種医は今一度添付文書を隅々までお読みください。副作用や保険適応（適応年齢）などで少しでも疑問や不安がある場合、接種依頼を受けている医療機関は依頼元（大病院小児科）に接種の可否をしっかりと確かめてください。

2, 審査委員の解釈は、昨シーズンのことはご破算にして、今年1月後半に1定点あたり0.9を超えた時点からの接種が可能という考えです。よって、接種時点で適応外の年齢になっているお子さんは査定の対象です（大きな流行に至らなかった昨シーズンは12月で終了し、その継続としてカウントしませんので、低出生体重児の6か月などの期間超え、ダウン症・心疾患などの場合の24か月超えにはくれぐれも注意をしてください）。昨年接種対象者では今シーズンの初回接種の日付は「再開した日」または「（継続している例では）1月の接種日」となります。この日付が年齢適応の判断基準となります。

3, いつまでの接種を保険適応として認めるかについては、流行の状況を見ながら専門家（青木知信先生、岡田賢司先生等）の見解を参考にして判断します。現時点では、少なくとも従来の流行期（4月まで）に限定するということではありません。通常は流行期とされない5月以降も流行が続く場合には「周囲で流行が続いている」などのコメントが必要となります（4月接種までは記載は不要です）。

4, 添付文書や各種通知にある適応症であれば接種可能です（合併症のあるダウン症は認めるが合併症がない例は遠慮いただく、などではありません）。

5, 上記の審査基準は流行期に入っている福岡県独自のものですので、MRさんなどから得た他県の情報は無視してください。

すべての審査委員からのお願いです。昨シーズンのように「焦って、勝手に」接種を開始しないでください。福岡県パリビスマブ投与適正化検討会（代表・落合正行九大准教授）では流行の始まりを、一つの目安として「1定点あたりの患者数0.9」と設定しています。シナジスはワクチンではありません。筋注すれば数日以内には効果の始まりが期待できるものです。「昨年は〇〇月から流行が始まった」、「他県で流行が始まった」などと自らを煽り立てるようなコメントは通用しません。紹介元（大病院小児科）の先生方には昨シーズンの失敗を肝に銘じていただきたい、というのも審査委員の総意であることを付記しておきます。

（福岡県小児科社保・国保審査委員連絡会）

## 役員会報告 (4月1日: 木曜日)

## 新型コロナウイルス感染症への対応について情報交換・協議を行ないました。

4月1日議事録:

ここ数日の様子は毎日北九州でも10-11名ほど出ています。また、問題の変異株が北九州ではどのように出てくるかということに興味を持たれます。

もう一つはワクチンで、とても混乱するのではないかと思います。実際接種して、2回めで副反応が多いという話や女性の方が症状が多いという話も出ています。ワクチンの接種に関しては、クーポン券などの問題や、ワクチンをどこで接種するのかということもはっきりしていない。県が主体でやっているの、非常に複雑で、また、ワクチンの流通がどうなるかもはっきりしない。ただ各地域において、市の医師会会員が多く出務していただくことが考えられおり、内科や小児科など含めて駆り出されることになる。医師は問診係としてであり、接種は看護師が行うと思われ。問診で非常に時間がかかり、接種して待機するところまでも時間がかかったり、場所の問題ややり方などを考える必要があるのか。また、気分不良を誰が見つめるのかなども大切になる。産業医科大学でアナフィラキシーがあったという話も聞いている。現状聞いている話では、北九州市の場合は接種を13箇所の会場で行うということではなさそうであり、福岡のように個別にということではないだろう。大きい施設で、医療従事者関連などでは自院である場合もあるかもしれないが、細かい量の調整なども含めて、殆どの診療所、小規模の病院などでは、集まって別の場所で行うことになるだろう。おそらく、コールセンターから連絡が来て、どこどこに接種をしに行くようにという連絡が来ると聞いている。日程ははっきりとはしていない。流通が順調でない状態であり、某病院では4月の1,2日に来るといった話であったが、2週間ずれたという話もあった。

ネットワーク部会で、自宅で経過観察(調整中のこども)に関して、どこまで治療が可能かという話があった。検査の依頼はあるが、それ以外に別のところで診られて、濃厚接触者や症状が出ている場合に、診てもらえないかという調査が開業医には来ている。今後そういったところに依頼が行くという話が出ている。

今年に入って、小児のケースはあまりないが、特別支援学校で出た他、それ以降は家族内や高齢者施設でのクラスターが出ているといったことが北九州市の感染者数を増やしている。また、移動が可能になっているので、そこでまた増えるのがということ。沖縄が増えているのは、観光客が増えているというのが。また、宮城が増えているのは?震災関連のイベントがあったせいでしょうか?ただ、震度6の地震があったりして、水道が出なかった等により避難されており、避難所が密集しているということがあったようです。そんなことも影響があるのかもしれないですね。

福岡市より北九州市が感染者数が多いようではありますが、少しクラスターもあったようですので止む終えないか。福岡市でもある保育園でクラスターは出ているみたいであるが、保育士さんから、もしくは家族の濃厚接触なのか。ただ、それ以上に濃厚接触者は増えていないようである。

一部の検査に関しては、PCRの検査でなく、定量検査で行われているのかが少し心配ではあります。

遠賀中間地区では、ここ1か月は検査は1人で、保健所からの依頼で、念の為の検査であったが、抗原陽性であった。臨床症状としては、突発性発疹であったという例もあった。保健所から依頼があって、京都に住んでいる人が北九州で入社式があり、その同僚が陽性で、ドライブスルーではなく、診療所に濃厚接触者での検査を依頼された。変異型の可能性もないとは言えないので、感染防止対策をしてやってくださいと言われたことと、ドライブスルーではなかったのは、一日でも早く検査をしたいということであったのだろう。(ドライブスルーだと、依頼した翌日;発覚したのが遅くなると翌々日になるためか)

また、在宅の子どもたちで、親がなったのか、子供がなったのかということがあった際に調整をどうするのかというのがまだ問題である。在宅で診られていた家族がなった場合に、在宅の児がどうなるのかということの調整が大切であるが、これから起こるかどうかわからない。

PCR検査を行うための工夫としては、各診療所で様々であるが、小児科特有の隔離室を持っているところも多く、そういうコーナーで行ったり、駐車場で行ったりしている。短時間すれ違うだけでは、あまり問題ないし、駐車場で待たせて取る場合もある。

場合によっては車がない場合などもあり、とある学生は自転車に来て、連絡をもらって隔離室に入れて、唾液をとってもらって葛根湯1週間だして、薬局までスタッフが薬を取りに行ったような事例もあった。待っている間は、外のベンチで待ってもらっていた。

## 役員会報告 (4月1日：木曜日)

### 会員の異動

#### ★開業医入会 (2021/4/1付)

古賀靖敏先生 (久留米大学小児科教授を退官後、門司区のふくむら小児科に勤務され4月1日付けで入会されます)

#### ★勤務医入会・再入会 (2021/4/1付)

##### ▼産業医科大学

大濱 尚 (九州大学病院)

齋藤 玲子 (東京都立小児総合医療センター)

中島 健太郎 (九州大学病院)

村川 沙織 (徳山中央病院)

米田 哲 (岡山大学病院)

渡邊 俊介 (神奈川県立こども医療センター)

##### ▼JCHO九州病院

井形 優平 (福岡浜の町病院)

古賀 大貴 (九州大学病院)

田代 直子 (福岡赤十字病院)

富田 宣孝 (九州大学病院)

山田 洸夢 (長崎大学病院)

##### ▼国立病院機構小倉医療センター

河原 典子 (下関市立市民病院)

隈本 大智 (九州大学病院)

坂倉 光 (小倉医療センター初期研修医残留)

泊 由里子 (長崎医療センター初期研修医)

##### ▼福岡県済生会八幡総合病院

白山 理恵 (北海道労働保険管理協会)

##### ▼北九州市立医療センター

尾上 泰弘 (田川市立病院)

渡辺 ゆか (九州大学病院)

明 祐也 (京都山城総合医療センター)

##### ▼北九州市立八幡病院

朝倉 杏紗圭 (北里大学病院)

大武 瑞樹 (久留米大学病院)

小川 裕子 (大阪母子医療センター)

沖 剛 (国立病院機構福岡病院)

中野 慎也 (大阪母子医療センター)

本間 一樹 (今給黎総合病院)

松永 千恵 (産業医科大学病院 内科)

矢野 真啓 (愛媛大学病院)

#### ★勤務医異動

: 2021/4/1付

多久 葵 (産業医科大学→九州労災病院)

重田 英臣 (産業医科大学→九州労災病院)

島本 太郎 (産業医科大学→北九州総合病院)

緒方 愛実 (産業医科大学→北九州総合病院)

福田(樋口) 尚子 (九州労災病院→産業医科大学)

浅井 完 (北九州総合病院→産業医科大学)

永汐 孟 (北九州総合病院→産業医科大学)

倉田 浩昭 (北九州市立医療センター→小倉医療センター)

佐藤 理絵 (JCHO九州病院→小倉医療センター)

佐藤 哲司 (福岡県済生会八幡総合病院→北九州市立八幡病院)

福田 祥子 (北九州市立八幡病院→健和会大手町病院)

: 2021/5/1付

神田 里湖 (北九州総合病院→産業医科大学)

#### ★勤務医退会 (2021/3/31付)

##### ▼産業医科大学

市川 俊 (旭化成大阪本社：産業医)

加藤 稚子 (九州大学病院)

多久 佳祐 (西日本産業衛生会：産業医)

##### ▼JCHO九州病院

土井 大人 (佐賀大学病院)

長澤 功多 (九州大学病院)

中島 佑 (別府医療センター)

畑井 恵理子 (山口赤十字病院)

古田 貴士 (JCHO徳山中央病院)

##### ▼国立病院機構小倉医療センター

石倉 稔也 (別府医療センター)

江本 因 (不明)

籾 紘彰 (九州大学病院)

牟田 龍史 (九州大学病院)

山喜多 悠一 (大分県立病院)

山下 尚志 (山下小児科継承)

##### ▼北九州市立医療センター

高畑 靖 (開業：那珂川市)

中尾 槇吾 (福岡市立こども病院)

##### ▼北九州市立八幡病院

東 陽三 (聖マリア病院)

落合 健太 (東京女子医科大学八千代医療センター)

2021/4/30付:

##### ▼産業医科大学

水城 和義 (岩田屋：産業医)

## 役員会報告（4月1日：木曜日）

## 協議事項・報告事項

1) 総会中止で開催できなかったシンポジウムは3月28日10時からZoom・WEBでの開催されました。

講師含めて32名の参加でした。

2) 新入会の方で、ML登録をご希望の方はアドレスとともにご連絡ください。

## 委員会報告

1. 学術委員会報告：白川嘉継

6月17日 WEB配信 ミヤリサン製薬

九州大学病院 心療内科教授 須藤信行先生

腸内細菌と脳腸相関

7月15日アートホテル小倉ニュータガワ WEB ハイブリッド開催 日本新薬株式会社

講師：未定

演題未定

8月 休会

9月 ワクチンフォーラム

10月21日予定 WEB配信 株式会社ツムラ

演者未定

（仮）小児における漢方薬の使い方

11月予定 第一三共

インフルエンザ関連

福岡歯科大学教授 岡田賢司先生予定

12月予定 塩野義製薬

新型コロナ関連演題

その他、COVID19のため、委員会は行われておりません。